

チャイロオオイシアブ

支笏湖道新ぶんぶんの森で長柄の鎌で下草刈りをしていました。お尻で繋がっているチャイロオオイシアブに出会いました。画像の記録は2015年7月22日11時30分でした。このアブの画像は澄川でもゲットしていました。澄川の方が出来が良いので下に並べてみました。こちらの撮影日時は2004年7月22日12時33分です。奇しくも同じ日11年前の記録でした。



チャイロオオイシアブはハエ目ムシヒキアブ科に分類されています。ムシヒキすなわち他の昆虫たちをハントして口吻を射し込み麻酔をかけてやお尻の体液を吸い取って生きてゆくわけで、凶暴なのです。甲虫を好んで捕食すること。固い表皮をものもしないならかの技を獲得しているのでしょう。ハエの仲間ですから飛行技術は素晴らしく、狙われたらまず逃げられないと思われます。上の写真のカップルは身体の大きい



♀の方がお尻に♂をぶらさげたまま、飛び去りました。凄い飛翔能力でありました。大きさは23～28mm、出現時期は5～9月、生息場所は山地で分布は日本全土のようです。

当協会は支笏湖国有林内で6箇所もの育林をしています。それぞれに特徴がありまして、ここぶんぶんの森はカラマツの天然更新が活発なのです。稚樹がびっしり発芽していて、順調に成長しているのです。植栽したトドマツの育ちが良くないので、このまま推移しますとカラマツ林になるものと思われます。区域内にカラマツの母樹がぼつん、ぼつんと残っていて、それらが種子をば



ら撒いてくれるのです。カラマツの実実はエゾリスの冬の大切な食料なのですが、雪原の独立樹にアプローチするにはあまりにも危険なんでしょう。エゾリスに食べられなかった種子が大量にばら蒔かれたわけで左の画像のように黄緑の葉のエゾマツの植樹の周りがウスミドリの葉のカラマツに囲まれている様子をとくにご覧ください。